

苫東環境コモンズの
活動をまとめて報告



haskap

NEWS LETTER

～ コモンズの現地から発信する～

勇払原野のSPIRIT

コモンズの視線

新しいシーズンを迎えました。野外をフィールドにした環境活動は、冬の間、休止するものですが、わたしたちは1月下旬にレター8号を出してから、まるで一目散に山仕事で駆け抜けるように毎週作業をしてきました。どれほどの保育ができるのか、内心ハラハラしながら連休を迎え、再生可能エネルギーの薪の原料の山を目の前にして、やっと少しほっとします。今季は、雪の中、丸太を運んでくれる馬搬専門のポニー数頭が応援してくれ、新しい展開に入った感があります。また、25年度はコープさっぽろさんとコココーラさんから別々の案件で初めて助成をいただくなど、身の引き締まる活動が待っています。また、苫東でまかなえるクラフトも手がけはじめるなど、ご報告したいことがらが目白押しです。乞う、ご期待。(事務局：草苺)

ホームページ <http://homepage3.nifty.com/hayashi-kokoro/commons00.html>

2月上旬からの活動報告

各行事末尾の数字は参加者数

- 2/02 sat 大島山林の保育 5
- 2/09 sat " 6.5
- 2/10 sun 大島山林でポニーの馬搬 7+8 (藪出し)
- 2/16 sat 大島山林の保育 9
- 2/23 sat 大島山林保育 5+2
- 3/03 sun 大島山林の保育 2
- 3/09 sat 3・10 悪天予報に付き通常作業 5
- 3/10 sun 馬搬のポニーの都合がつかず、天候不順もかさなって人力藪出しもすべて中止
- 3/16 sat 大島山林保育 5人 お客さん1名
- 3/17 sun 大島山林で藪出し作業 ポニーによる馬搬の2回目 7人+応援3
- 3/18 mon 苫東コモンズを話題提供(草苺) @ 東大農学部「資源の活用と排除に関する研究会」
- 3/20 wed 大島山林 1
- 3/23 sat 大島山林 = 「この日で今年の大島山林の間伐はあらかた終了!!」 6名+1
- 3/31 sun 大島山林・藪出し・人のみ 12

2013年度

- 4/06 sat 育林コンペの現場 5
- 4/10 wed 前進キャンプ(作業簡易小屋)撤収 1
- 4/13 sat 植苗病院の林の保育(札幌ウッディーズが応援) 6 25年度山仕事キックオフの会 7
- 4/20 sat 育林コンペ作業&15:00 植苗病院でほだ木積み 6
- 4/27 sat 薪まつり (運搬と薪割り) am9:00 集合 11
- 4/27 mon NPOの二橋さん(クラフトマン、NPOの顧問を依頼予定)、クラフト素材探索(事務局案内)
- 5/03 fri 薪まつり 15

TOPIC 1

藪出し作業を町内のポニーが応援

冬の山仕事で、わたしたち素人にとってもっとも大変なのは伐採した丸太を、車で運べるころまで出す、いわゆる藪出し。専用の運搬機械は150万円以上するし、道産子に頼ろうにも調教や維持の心配が絶えない…。コミュニティ林業は人力に頼るしかない、と諦めていた折の朗報。薪ヤードのすぐ側のポニー所有者が応援を名乗り出てくれたのでした。2月10日は、白岳(はくたけ)、黒霧島、そしてリトルボーイの3頭、3月17日は1頭が応援に来てくれました。憧れの馬搬を目の当たりにして感動したメンバーも多々。



TOPIC 2**苫東のコモンズ事例を東大農学部で紹介**

当NPOの活動のバックにはコモンズという概念が隠れているのはパンフレットなどですでにご存知の通りですが、ステージからすれば「グローバルに発想してローカルに動く」そのローカル・コモンズと言えます。ローカル・コモンズの考え方はこれからの社会に欠かせないキーワードとなる考えであることから世界中で研究されている分野でもあります。

東大癒しの森研究所の斎藤さんから依頼があり、苫東の事例を3/18、東大農学部の小さなセミナーハウスで紹介してきました。当NPOは、地域に徹した活動と、このようなオールジャパンの視線、昨年秋の欧州のコモンズのヒアリングなど、レイヤーの異なる取り組みが重なっていて、これから地域にコミットする機会も増えそうな気配です。6月、山梨県の富士吉田市で行われる世界コモンズ学会にもすでに英文アブストラクトを提出し参加するなど、視野を広く外にも向けて充実を図りたい考えです。

なお、25年中には、苫東環境コモンズや欧州と道内外のコモンズをテーマにして考察する出版が予定されています。

TOPIC 3**植苗病院の癒しの雑木林と小径、支援一段落**

植苗病院で瀧澤紫織医師(NPO理事)が森林療法を始めるにあたって、個人的に雑木林の保育支援を始めたのは確か7年前でした。病院の前の林約0.5haから着手し、裏へ。保育と同時にフットパスのルートを決めNPOメンバーの長老に笹刈りをお願いし、あとは瀧澤さん等病院側がプログラムを組んで患者さんと野外療法を始めました。春夏秋冬の利用と、その後の当NPOの支援および札幌ウディーズの応援で林と径はここまでできました。林のフットパスは踏んでもらってしっかりしてきました。瀧澤さんはここでの経過を森林学会などで折りに触れて発信しています。

先日4月13日恒例の保育活動をした結果、どうやら対象としたエリアの保育は一段落することがわかりました。当面は使い込んでいくのみ。



写真は歩きこまれたフットパス。昨今は尾根上の径が

好まれているようだ。

TOPIC 4**クラフトの試作進む**

日常的に山仕事に関われない方々のためになにか記念のギフトはないか、とずっとスタッフと思索しています。その結果生まれたのがヘビの抜け殻のラッキーチャーム、ハスカップの塩漬け、枝のボールペン、そしてそこへ新しくデビューしたのがクラフトマン・nihashiさんのヘビ柄のペーパーナイフ、色鉛筆、バターナイフなど。5月25日、nihashiさんを講師に、バターナイフとジャムスプーン(左)の製作を予定。いずれも素材は苫東で、頒布可能です。

**編集後記**

今年はいよいよハスカップの生育調査に着手します。コカコーラボトリングさんの助成もいただき、5月中旬から準備調査をします。まずは、いかにハスカップがハンノキの木の下に隠れ始めたか。今年中に、市民がハスカップを語る集いを持ちたいと思っています。

この冬の除間伐材を連休までにほぼ運搬を終え、これから本格的に薪割りに入ります。先日、コープさっぽろさんの助成で購入した薪割り機を試運転したところ、かなりハイペースで進行。いずれ近く薪の山と共に改めて紹介します。(事務局)

**お問い合わせ**

NPO 法人苫東環境コモンズ 事務局
草薙 kt-884-556@nifty.com
携帯 090-6999-2765